

## 中国

## 炭素繊維

## 炭素繊維原料が発展のボトルネック

中国では炭素繊維の大規模生産と用途開発が進んでいないが、業界関係者によると、研究開発と生産技術以外に、その原材料の未発達も中国の複合素材製自転車の発展のボトルネックになっているという。

中国の炭素繊維メーカー連雲港迎雁新材料によると、中国の PAN 系炭素繊維の研究は 1960 年代に始まったが、炭素繊維は重要な軍需材料であり、海外の技術封鎖と貿易制限から、中国の炭素繊維は基本的に自主開発が主体となってきた。1976 年に山西煤化所で初めての PAN 系炭素繊維生産ラインが完成した後、現在では連雲中復神鷹炭素繊維、吉林石化などの企業が T300 炭素繊維の原糸を生産する能力を有している。しかし、大部分の企業の生産規模は小さく、一部が軍需製品に用いられているが、大半は民生需要で消費されている。

近年、国内の炭素繊維の安定生産が可能となったことで、現在の国産炭素繊維価格は輸入炭素繊維のピーク時の 4 分の 1 程度に下がり、国内企業では炭素繊維自転車部品が生産されるようになった。世界全体で生産される自転車は年間 1 億台を超えるが、炭素繊維製の自転車は 70 万台である。業界関係者によると、国産の炭素繊維製自転車の開発が進むにつれ、製造過程の自動化も進み、炭素繊維製自転車が中国の一般に広く普及されるとみられているという。

## インド

## 通商

## 中国等のビスコース S に AD 課税へ

商業省の認定機関が中国およびインドネシアから輸入されるビスコース短繊維（竹繊維を除く）に対し確定反ダンピング税を課すよう提言した。

本件はインド人造繊維協会（Association of the Man-Made Fibre Industry of India AMFII）の訴えを受けて調査が行われていたもの。認定機関は不当に廉価な輸入品により国内産業が損害を被っていると断定し、インドネシアから輸入されるビスコース短繊維（他国で生産されインドネシアから輸入されるものを含む）に対しては原則として 0.512 ドル/kg、例外として P.T. South Pacific Viscose の製品は 0.103 ドル/kg、PT Indo-Bharat Rayon の製品は 0.164 ドル/kg の確定反ダンピング税を課すよう提言している。また、中国から輸入されるビスコース短繊維（他国で生産され中国から輸入されるものを含む）に対してはすべて 0.194 ドル/kg の確定反ダンピング税を課すよう提言している。